

報告事項才

図書館総合展2022カンファレンス in 鳥取及び 都道府県立図書館サミット2022の開催結果について

令和4年12月22日
図 書 館

全国の図書館職員や図書館関係者が集まって、図書館における様々な取組やこれからの図書館のあり方について議論するイベントを、令和4年11月26日から3日連続で本県において開催しました。

【図書館総合展とサミットを本県で開催する目的】

コロナ禍の中、研修参加もままならず、新たな知見により自らの館を見直す機会が不足している。

都道府県立図書館のあり方について、実際に悩み、考え、実践しているのは、他県の都道府県立図書館に勤務する職員であり、全国の同じ立場の職員と意見を交わし、様々な事情や工夫を学びながら自館の事業にフィードバックしていくことは不可欠である。本イベントを通して他県の図書館職員等と交流し、つながる機会を設けることを目的とする。

1 図書館総合展2022カンファレンス in 鳥取

(1) 日時等

- ア 日 時 令和4年11月26日(土) 午前9時30分から午後5時20分まで
イ 会 場 鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館(鳥取市扇町21)
ウ 参加者 243名(会場参加者83名+オンライン申込者160名)

(2) 図書館総合展とは

今年で24回目となる国内最大の図書館関係のイベントであり、関係者の最大級の交流の場。

コロナ禍以前は、毎年パシフィコ横浜で延べ3万人以上の来場者を迎えて開催。令和2年と令和3年は、完全オンラインで開催。令和4年度は、オンラインを主としながら一部小規模なサテライト会場(鳥取会場)をつないだハイブリット形式での開催となった。

(3) 概 要

- 基調講演「デジタル社会の行き着く先にライブラリアンが果たしうる役割を考える」
講師：清田 陽司 氏(一般社団法人情報科学技術協会会長)
- 講 演「デジタル時代のシティズンシップを支えるのはだれか？」
講師：豊福 晋平 氏(国際大学 GLOCOM 准教授)
- パネルディスカッション1『現在を語る』～GIGA スクールと学校図書館～
宮澤 優子 氏(高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター 司書)
小林 みちる 氏(鳥取県立鳥取西高等学校 司書主任)
高橋 菜奈子 氏(東京学芸大学附属図書館 学術情報課・情報基盤課 課長)
今井 福司 氏(白百合女子大学 准教授) ※オンライン登壇
- パネルディスカッション2『未来を語る』～教育をデザインする、探究学習の先にあるもの～
織田澤 博樹 氏(青翔開智中学校・高等学校 学校長)
小野 永貴 氏(筑波大学助教、軽井沢風越ラーニングセンター共同研究者)
横山 順一 氏(鳥取県教育委員会 GIGA スクール推進課長)

(4) 感 想

- ・図書館員がこれから果たすべき役割、必要なスキル、自身が置かれている状況など俯瞰できた。
- ・Society5.0時代の専門職としてのライブラリアンの役割が見えてきた。
- ・教育現場でどう生き残っていけばいいのか具体的なイメージがわいた。
- ・学びの場が学校の中だけにとどまらなくなっていることが実感できた。
- ・GIGA スクールは学校図書館が教育に寄与するチャンスではあるが受け身では機を逃す。
- ・自分に足りない能力を見極めて、他者とつながりつつ学ぶことの大切さがわかった。
- ・思った以上に学校図書館が変革していく必要があるということを実感した。

2 都道府県立図書館サミット2022

(1) 日時等

ア 日 時 令和4年11月27日(日) 午前10時から午後5時30分まで
令和4年11月28日(月) 午前10時から午後5時まで

イ 場 所：鳥取県立図書館 大研修室

ウ 参加者：27日 250名(会場参加者90名+オンライン参加者160名)
28日 290名(総会場申込者+オンライン申込者)

※28日早朝、県外のスタッフ1名について、コロナウイルスの陽性判定が確認された。急遽登壇者・スタッフは全員、抗原検査で陰性を確認するとともに、会場参集は中止し、参加申込者全員にオンライン配信のリンクを送る方法で対応した。

(2) 都道府県立図書館サミットとは

今後の都道府県立図書館の在り方を考えることを目的に、全国の有志が実行委員会を組織して平成28年に初めて開催した。その3年後に第2回が開催されており、本会が3回目のサミットとなる。

(3) 概 要

○セッション#1

基調講演：都道府県立図書館をめぐる論点整理 「都道府県立図書館のこれまでとこれから」

講演：田村 俊作 氏(慶応義塾大学名誉教授・石川県立図書館長)

○セッション#2 クロストーク

話者：田村 俊作 氏、小林 隆志 進行：丸山 直也 氏(山梨県立図書館)

○セッション#3 都道府県立図書館と基礎自治体：都道府県立図書館の役割

課題提起：デジタル社会における図書館のポジショニング・サービスモデル

話者：吉本 龍司 氏(株式会社カーリル)

情報基盤としての都道府県立図書館1ー長野県のデジタルシフト

話者：森 いづみ 氏(県立長野図書館長)

コンテンツサプライヤー/県/市町村との連携-鳥取県の取組み

話者：岩崎 武史(鳥取県立図書館支援協力課係長)

○セッション#4

図書館事業経営のアライアンス(提携)ー都道府県立図書館と基礎自治体そして多様なプレイヤー

図書館とまちとのにぎやかな関係 話者：高橋 真太郎 氏(境港市民図書館)

県市合築図書館の現状・課題・展望 話者：山重壮一 氏(高知県立図書館専門企画員)

○セッション#5

図書館の可能性：空間そして情報・人の融合 建築からみる図書館の“空間・場”

話者：MARU. architecture 森田 祥子 氏 畝森泰行建築設計事務所 畝森 泰行 氏 他

(4) 感 想

- ・自由でオープン、熱意と発信、これが図書館の魅力なのではと思った。
- ・電子図書館で何をするのか、市町村支援で何をするのかを考えるきっかけになった。
- ・セッションの間に交流が盛んに行われていて、とても良かった。
- ・いずれも今考えたいテーマ、濃い話が続き参加して良かった。
- ・公共図書館の今を考える上でヒントになるお話を聞くことが出来て良かった。



総合展のパネルディスカッション



サミットのクロストーク